

鵜成神社 岡山県神社庁 神社検索システム

由緒

社伝によると当社は西川面の鵜江神社の分霊を勧請したもので、もとは宇内大明神と称していたが、貞享年中（1684～1688）ころに鵜成大明神と改号したという。明治9年までは黒木村（現美星町黒木）も当社の氏子であったが、明劔神社を祀るようになって氏子を離れた。参道には鵜成大明神 元禄2己巳年2月4日の銘のある石鳥居、享保3戊戌年9月吉日 願主当村山縣又右衛門、天明6丙午3月吉日 願生成歳女の銘のある石燈籠各1基、享保3戊戌年9月15日 施主祝詞信濃守、神主源右衛門、儀右衛門、藤右衛門の銘のある手水鉢があり、拝殿前には昭和10年4月吉日 森岡忠太郎、森岡登一の銘のある唐獅子かおる。本殿に向かって右側には末社の明劔 御鋒 稲荷 岩山神社が 左側には出雲大社がある。御鋒神社は明和年中に起こった一揆の指導者で、矢掛の河原で打ち首になった宇平治という人を祀ったものという。宇内の西明院境内には宇平治の供養塔といわれる寶匡印塔がある。岩山神社は鵜成神社よりも古い神社でその社地へ鵜成神社を勧請、それ以後末社として祀られる。出雲大社は明治中ころに大社講の人たちが祀った。氏子が6組に分かれて組内で籤をひき大当1人相当4人を決める。当を受けると奥の間の前に縄を張り、昔は四足のものは食べてはいけなかった。

昭和45年まではオハケを立てていた。オハケは高さ約5メートルの真竹の先に笹を少し残し、御幣を付けて立て、根元に川砂を盛る。周囲にヨロイ竹を立てて垣をしていたが現在は立てられない。

また鳥居には長さ5メートルの大注連縄が藁蛇と同じに作られ、頭はシュロで目は赤いトウガラシで作られる。また 昭和45年までは大祭日にはご神幸があり、社森神社と木野山神社がお旅所であったが現在は行われていない。千歳楽があり青年会・子供会で現在も出している。

前の写真へ次

基本情報

神社コード 09091

神社名 鵜成神社（ウナリジンジャ）

通称名

旧社格 村社

鎮座地 〒714-1221 小田郡矢掛町宇内2031

電話番号

FAX番号

駐車場 有 10台

御祭神 吉備津彦命

御神徳 氏子安全

主な祭典 4月第1日曜日：春祭
10月第2土曜・日曜：秋祭
12月第1日曜日：新嘗祭

宮司宅電話 0866-93-6283

URL

e-mail

特記事項

7年に一度荒神社式年祭を行う
秋祭りには奉納子供相撲大会、千歳楽がある
大鳥居に大蛇の注連縄をかける

氏子地域

小田郡矢掛町（宇内）

交通アクセス

井原線小田駅から北へ3.5 km

神事一覧

式年祭	祭礼日時:	文化財指定: 無	神事詳細
神楽	祭礼日時: 10月20時	文化財指定: 無	神事詳細
餅つき	祭礼日時: 10月第二土曜日	文化財指定: 無	神事詳細
年占い	祭礼日時: 4月第1日曜日11時	文化財指定: 無	神事詳細
だんじり	祭礼日時: 10月第2土曜日午後	文化財指定: 無	神事詳細
相撲・角力	祭礼日時: 10月第二土曜日19時	文化財指定: 無	神事詳細
宮座	祭礼日時:	文化財指定: 無	神事詳細

[検索画面に戻る](#)

